
悠長な鈴木さん

樂々園れな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悠長な鈴木さん

【著者名】

楽々園れな

【あらすじ】

出会い系で行きすりの男と寝ては淋しさをやり過ごすマリ。そんなマリは鈴木さんと出会い、少しずつ日々が変化していく。

知り合つたきっかけ

月末に、しかも給料日前でお金がない、あと、週末にひとりぼっちといつのが堪らなく嫌だった。

今すぐ会えてお金くれるなら誰でも良い。ケータイの出会い系サイトに自分のプロフィールと3万でホテルもOKと書き込む。返信が30分もない内に来る。40歳のサラリーマンから。今すぐ会いたい、とある。あたしはすぐに指定された待ち合わせ場所に向かつた。

普通に生きるというのは、以外に疲れるものだ。少なくともあたしにとつては。高校を出てすぐに就職して、毎日、それなりにうまくやっているつもりだつた。だけどあたしの心の奥には得体の知れない空洞があつて、それは口を追うことに肥大化していつた。空洞はあるでブラックホールの様だつた。ありとあらゆる物を欲しがつた。

一時、あたしは買い物にハマつた。それも量が尋常ではなかつた。おかげで毎月赤字で両親から借金までする様になつた。

いよいよ部屋に物が溢れるようになると、今度は全て捨ててしまつたり、必要な家電まで捨ててしまつた。

出会い系を始めたのはその頃だつた。お金までもうれて恋人気分を味わえるなんて最高だ。最悪、お金が貰えなくても、とりあえず淋しい思いはしなくて済む。

しかし、物事そつうまくこかないものだ。こつものように週末、サ

イトに書き込みをし、返信してきた男と会つために待ち合わせ場所へ向かうと、そこには会社の上司がいた。

「こいつ、家庭もあるくせに何やつてんだ。気持ち悪い。自分の事は棚に上げて、あたしはそう思つた。

で、その日は結局上司とホテルへ行くハメになつたのだが、それを会社の人間に見られていた訳だ。あたしと上司が不倫していると会社中で噂になり、上司は左遷。あたしはクビになつた。

鈴木さんと出会つたのはそんな折だつた。

会社をクビになつたあたしはフレンチレストランでアルバイトを始めたのだが、鈴木さんはその店の常連だつた。来店する時はいつも小綺麗なスーツを来て、女を連れていた。女は来る度に違う女。

また、女を連れている癖にあたしを含めた全員の女のスタッフにまで妙に愛想をふりまぐ。

変な奴だと思った。

顔だつてたいしたことないのに、こうゆう奴に限つて以外とモテたりするんだよな。あたしは絶対に「めんだけどね。

そつ思つていた。

「お疲れ様です」

給料日前、オーナーから給与明細が渡される。

「ありがとうございます。」

給与明細を貰つた瞬間はやつぱり嬉しい。しかし、それを開けてみたとたん暗澹とした気分になる。

今の仕事に就いてから収入がかなり減った。

普通に暮らしていても赤字になるくらいだ。

まあ、当然といえば当然だ。正社員とアルバイトでは手取りが全然違つ。

貧乏は、心まで荒ませる。

例えば、街を歩いていて、ブランド物のバックが目に入ったとき、それを買えないのだとと思うと、あたしは自分が生きる価値すらない人間なのだという気分になる。

なんとかそのブランドショップを後にしても、街を歩いていればあらゆる看板が、声が、映像が、あたしを追い詰める。あれもこれも欲しい。でもあたしはどれも買えない。この街は、本当に素敵なモノで溢れている。

上司との一件以来、あたしは出会い系サイトへの書き込みを全くしなくなつていた。

もしかしたらまた知り合いとやる事になるかもしねないと自然と敬遠するようになつた。

しかし今はそんな事を言つてられない。

あたしは再び書き込みを始めた。

沖田マリ。20歳。

彼氏はいません。淋しいです。3万でホテルもOKです。今すぐ会えませんか？

あとは返信を待つだけ。何もかもいつも通りだ。

書き込みをしてから約30分。返信が来た。あたしは慌ててケータイを開く。

相手の男は30代のサラリーマン。場合によつては10万出す、と送つて來た。

こんな奴、普段のあたしなら胡散臭いと思ってスルーするが、今は違つた。今はとにかくお金が欲しいのだ。あたしは手持ちの服で一番高い物を来て会いに行つた。

その時はまさか、その相手が鈴木さんだとは思いもしなかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3326f/>

悠長な鈴木さん

2010年10月21日20時55分発行